

研究室紹介

Laboratory introduction



地域文化

長坂 格 Itaru Nagasaka

言語文化

谷本秀康 Hideyasu Tanimoto



行動科学

清水裕士 Hiroshi Shimizu

スポーツ科学

磨井祥夫 Sachio Usui

自然環境科学

中越信和 Nobukazu Nakagoshi



長坂 格 先生

担当講義

文化人類学B / 教養ゼミ / 文化人類学 / 社会生態人類学 /
コンピュータ地域研究 / 社会生態人類学演習 / 民族学研究 /
総合科学演習 / 総合情報論A / 総合情報論B



○研究内容

私は文化人類学の研究をしていて、主たるフィールドをフィリピンにおいています。大学院での博士課程での研究では、

フィリピンの村で起きたある現象について調査研究しました。その村から二〇年間くらいでローマに沢山の人が働きに出るようになって、現地に多くの新しい立派な家が建ったり、儀礼が盛んになりました、という現象です。そのような現象が起きたプロセスを綿密に調べ、それを文化や歴史、制度や法律といったさまざまな角度から考えていきました。

現在は、九〇年代くらいから増加した、フィリピンから子供たちが世界各国に移住するという現象について研究をしています。各国に暮らす親の元へと移住していった子供たちがそれぞれの国でどのような生活を送っているのか、またそれらの違いについて比較し研究しています。何人かの研究仲間とともに、実際にそれぞれの地でフィールドワークをしています。

私自身は、フィリピンから子供の頃に移動してきた人とイタリアのアパートで「一カ月暮らし」して日常生活に密着し、そ

の人たちがどのような生活を送っているのか、どのような事を悩んでいるのかといった事を調査したりしています。

○研究までの道のり

私が行った大学は、総科と同じように大学に入ってから専攻を選ぶところだったんですね。だからいろんな分野に手を出してみても、それで一番自分に合ってるなっていうのが調査を通して現実の社会と触れられる社会学だったんです。社会学を専攻することになって、アンケート調査に夢中になりましたが、その後にとった、文化人類学の授業で学んだフィールドワークという調査方法が面白

そうだなって思って、そのとき3年か4年だったんですけど、どうしてもやりたくなかったんです。だから大学院に行きました。それでフィールドワークで行く場所を選ばないといけない、そのときに思い出したのが、高校時代に行ったフィリピンへのスタディーツアーでした。行ったのがちょうど一九八六年の革命

の一カ月後くらいで、革命の余韻が残っていてすごい熱気があって、その印象がやっぱり強かったですね。そのときに、

もちろん革命のことも見たし、宗教のことも見ました。フィリピンの主な宗教はカトリックで、聖週間という復活祭の前の一週間に、フィリピンでは行列をするんですよ。十字架を担いで鞭で打たれながら、本当に血を流して行列しているんです。高校生のときにそれを見て、衝撃を受けたこともあり、フィールドワークするならフィリピンにしようと思えました。そして大学院では東南アジア研究をしようと思えました。

○学生時代

大学院時代がフィールドワークをしてとても濃密な時間だったので、大学生の頃の印象が薄いんですよね(笑)。結局大学院時代は、何を勉強しようかとかが、自分が大学院に行くのか働くのかもなかなか決められませんでした。いろんな授業を取りながらずっと迷っていましたね。でも今思うと、この経験は結構楽しかったのかな。

あとは、東京に出て一人暮らしを初めてしました。アパートにお風呂がなかったのが、初めてだったので銭湯にいったのですが、初めていくときは緊張しましたよ。銭湯には、ち

ケツト制のところと番台にお金をおくところがあるのですが、どうやってお金を置いたら粋なのかと考えていましたね（笑）。アパートはお湯が出なかったので、初めの頃は沸かしていたのですが、だんだん面倒くさくなって寒くても台所の水で頭を洗ったこともあります（笑）。

○おすすめの国

——今までに行った中で良かった国はどこですか？

なかなか答えにくいですね。私にとって今「行きたい」と思うのはフィリピンです。行って食べたいものもあるし、会いたい人もいるし。けれどもそれは個人的な歴史の積み重ねからそう思うのであって、他の人はどう思うかわかりません。私の印象では、ベトナムは食べ物がいしかったです。

——東南アジアの発展途上国に行って、最初に戸惑いはありましたか？

ありましたよ。私がフィリピンの大学に留学した時は断水が多かったし、停電も非常に多かった。最初は、バケツ一杯の水でどうやって全身をきれいにできるよように水浴びをするかということ色々と考えました。けれどそれらも、しばらくすると大したことではなくなりまして、そのうち日常化してくるんです。

○学生に一言

私は結局四年間かけて自分のやりたいことを探しました。やりたいことが早く見つければそれが良いのかもしれませんが、今思うと、そうして色々な授業をとりながら、自分はいったい何に向いているか、何を一番おもしろいと思えるのだろうか、自分は何に関心を持っているのだろうかと考えたのは良かったです。総科も様々な授業をとることができまね。私自身はそれが結構楽しかったので、総科のそういう所も活かしてもらえたらと思います。

Q.人生の一大決心は？

やっぱり、結婚は一大決心かな。だってそのあとの人生長いわけで、この人とずっと一緒に過ごしていくわけですから。もちろん研究職を目指すと決めたのもすごく大きな決心ではありましたが、それはなんとなくでした。

Q.人生で最大の失敗は？

学部時代に留学しなかったことです。学部時代に日本以外で学生生活や授業を経験しなかったことは大いに悔いていることです。

Q.人生で最大の成功は？

文化人類学のフィールドワークで、この人についてもっと知りたいという人に会えたことです。成功というか幸運。本当によかったなと思います。

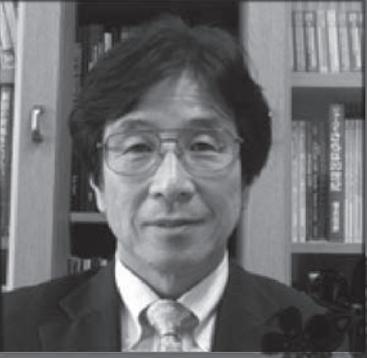
Q.趣味は？

水泳ですね。でもここ2年間くらい泳いでないかな。

Q.おススメの本は？

川喜田二郎の『発想法—創造性開発のために』
宮本常一の『忘れられた日本人』

谷本 秀康 先生



担当講義

オーラル・プレゼンテーション / コミュニケーション / コミュニカティブ・ライティング / 英日同時通訳法演習 / 総合言語文化理論 / 総合演習 / 総合科学演習 / 英語運用演習 / 総合科学演習 / 特別研究 etc...

○研究内容

学部では、総科の専門授業科目である英日同時通訳法演習を教えています。大学院では、比較語用論が私の専門です。

○研究までの道のり

私はもともと語学学校で英語を教えながら、同時通訳者として働いていました。その後、平成元年に広島大学に来たのですが、それまでに蓄積されてきた同時通訳の技術や知識、経験を理論化することができれば、日本の英語教育のやり方に新しい指針を示すことができるのではないかと考えました。それと同時に、異文化コミュニケーションに関して、これからは世界のグローバル化が更に進んで、日本以外の異なった文化に接することも、違った文化圏から来る人たちと接することも増えてきます。英語は国際語になっていきますが、英語で話そうとしたときに母語である日本語の影響で慣用句などの独特の表現などをうまく英語に訳せなかった経験をもとに、どうすればうまく表現できるかを研究しています。

○学生時代

我ながらよく勉強したと思います。私は京都外国語大学外国語学部英米語学科の専攻生でしたが、それに加えて一年生の秋に語学学校に通い始めました。私が大学に入った年、一九六九年の七月にアポロ十一号が初めて月面着陸をして、その模様がテレビで生放送されました。その時に、アメリカのヒューストンと宇宙飛行士の交信が、初めて同時通訳で日本語に訳されて、生放送されました。その素晴らしい同時通訳に大いに感銘を受けて自分もそういう風になれたらいいなあと思ったのがきっかけです。

たまたま京都 YMCA に同時通訳者養成コースがあると知って、試験を受けたところ運よく合格し、そこで週二回九十分ずつ授業を受けて通訳技術を磨いたというわけです。勿論、私はもともと外国語大学の学生だったので英語に関する授業もたくさん受講しました。どの授業も少しも無駄にしないように、予習も復習もしつかりとやりました。実は私は留学とか海外生活の経験がありませんが、自分の日常生活の経験がありませぬが、自

ことよって、海外留学した人たちに負

けない位の語学力を身に着けた結果、同時通訳者になることができました。ある意味で、現役大学生にとって良いロールモデル、手本になるのではないかと思っています。今の若い人たちの多くは海外留学をしなければ英語がうまく話せるようにならないと考えていますが、必ずしもそうではないということです。自分なりに工夫して一生懸命努力すれば、英語でも、それ以外の事でも身に付くという事です。

○コミュニケーションで必要なこと

communication の com は、共有するという意味です。けれど実際には、一方的に自分のことを話したり、相手の話を聞き流したりして、お互いの思いを共有できないことが多いのです。

同時に言葉というものは、社会的・文化的な意味をもっています。例えば、日本語の「お金を湯水のように使う」という表現と、英語の spend money like water という表現は、同じ「お金を浪費する」という意味を持っています。ところが、水が貴重な中近東では、spend money like water という表現は「お金

節約する」という逆の意味に解釈される可能性がありません。

通訳するときは、このような誤解がないよう、常にその人がどこから来た人かを意識します。それは日本人同士で会話するときも同じで、誰と誰が話しているのか、誰に話すのか、ということを意識しないと正しいコミュニケーションはできません。そういうことを意識して相手の立場に立って言葉を選んで話すこと、その言葉を選んだことで相手为本に言いたいことは何か考えて聞くことが大切です。そうすれば互いの複雑な思いを共有することもできると思います。

○学生に一言

どの分野を専攻していても、専門バカになってはいけないということですね。

オールラウンドに深い知識を持って、専門に関してはさらに深い知識を習得する、つまり重点的ジェネラリストを目指す必要があります。そのためには、時間と努力を惜しんではいけません。日本の大学生は、大学に入学すると安心して勉強する意欲を失いがちです。日本の大学ではそこそこ勉強すれば進級も卒業もできますが、そういう生活を続けていると、知識は広く浅いものになってしまいます。

本当に一生懸命勉強すれば、総合科学部の「広く深く」という目標を達成できると思います。そのためには大学生活を厳しく自己管理する必要があります。遊ぶ時間も勉強する時間も圧倒的にあるわけですから。

大学は、定められた授業料を払いさえすれば、どれだけ多くの知識と技術を学んで卒業してもいい場所だと思います。皆さんは、できるだけ楽をして、少ない知識を持って大学を出ようとしていませんか？休講になったら、「やったー得した！」と考える学生が多いと思いますが、休講というのは、当然受けるべき授業を一回分損しているのです。そういう発想を持って大学生活を送ってほしいですね。

それと、これからは国際化の時代なので、英語は意思疎通の手段としてある程度身につけておいてほしいと思います。

Q. 将来の夢は？

フルマラソンのレースに出ることと
中国語か韓国語を勉強して身につけること。

Q.座右の銘は？

Practice makes perfect.
(習うより慣れよ)

Q. 趣味は？

手品とジョギング

Q.おススメの本は？

聖書 (まずは新約聖書)

清水 裕士 先生

担当講義

行動科学実習
行動科学基礎実験法
行動科学基礎実験



○研究内容

私は、社会心理学を研究しています。その中でも、友人関係や恋愛関係などの親密な対人関係の研究をやっています。たとえば、困っている友人を助けたいというような、誰もが持っている気持ちや友情を考えて、その友情がどうやってできるのか、また、どうしてそう思うのか、というようなことを調べています。

もともと興味があったのは、人と人の心理的な距離（親密さ）で、一般に物理的な距離にかかわらず、なんとなく心の中で、この人は近い人、この人は遠い人、みたいな言い方をしますよね。それってなんだろう？と思ったのが最初で、その心の近さっていうものを、科学的に証明できたらいいなと思う、研究しようと思いました。

今僕は、「かけがえのなさ」という概念を使って親密さを定義しています。かけがえがないというのは交換ができないというところで、その人が魅力的であったり、自分にとってポジティブであったりのような価値だけではなく、その人が他の人では交換できないということが重要なのではないかと思います。

また、最近は規範の研究もしています。例えば、誰もが法律で決まっていなくても、「これはせなあかん」みたいなルールのようなものを持っていると思うのですが、そういったものは何でできるのだろう？みたいな研究もしています。

また、研究をする上で、私はアンケートをよく使います。内容は様々ですが、さっき言った、かけがえのなさを測定する質問を作ったり、場合によってはその人のパーソナリティ（性格）を測定するのが入っていたりもします。

○学生時代

僕はそんなに、青春！な雰囲気のある大学ではなかったですね。僕は関西学院大学出身なんですけど、そこは中学からずっとつながっている学校なんです。なので新しい友達というよりは中高の友達と一緒にいたという感じですね。それで、その友人たちと関学学生学術研究会というすぐく堅い名前のサークルを立ち上げたんです。広大もそうですけど、大学にはいろんな学部があって、他学部の人たち

が何をやっているか分からないじゃないですか。でも僕らは中高の友達がいっぱいいるので、このメリット何とか使わないか、各学部で学んできたことをみんなで共有し合おうじゃないか、と考えて、このサークルを立ち上げました。

サークルでは、けっこういろいろなことをやりましたよ。シンポジウムみたいなこともやりました。当時は都市計画みたいな話が盛り上がっていたので、観というテーマについてとか。景観というのは街の風景ですが、例えば経済学な観点から考えると、ここにこんなコメントを置くとお金がどれくらいかって……という話になりますよね。

律の立場から見ると、そのモニュメンが卑猥なものだったら置くことではないとか言われて、置く場所が制限さたりするわけです。だけど美学的な観点からすると、別に卑猥だろうと何だろうと芸術的で美しかったらいいじゃないかという話になってきます。心理学的な社会的な立場で考えると、モニュメントを作ることで人が集まったり、待ち合わせの場所になったり、そういう影響

考えられるわけです。そういう風に様々な観点からいろいろ議論することをやっています。結構楽しかったですよ。そんな学生生活でした。

○男女間の友情は成立すると思いますか。

可能だと思いますけど、お互いにかげがえないと思っている点で友情も恋愛も共通している所があると思うので、急に友情から恋愛に変化することもあると思います。つまり、友達だと思っけていてもパートナーとしていいなと思えば自然と恋愛対象になってしまったりと、恋愛方向に行きやすいんですね。それを、友情が壊れたと見るか、より仲良くなったと見るかは人それぞれですね。

○「明るい人にはこのタイプが合う」のように、相性みたいなものはあるんですか。

相性については色んな研究がありますが、一貫していかないか、あっても弱い影響しかないと思います。

関係っていうのはその時その時で作っていくものなので、「趣味が合う」とかはきつかけとして大切だと思いますけど、結

局は二人がどう会話して、どんな活動をするかによると思いますね。

それで、仲が良くなれば「相性がいい」と言いますし、昔は仲良しでも仲が悪くなれば「相性が悪くなった」と言いますから、「相性」っていうのは二人の関係を後付けで表すものでしかないと思います。

○学生に一言

総合科学部だからこそ、いろんな学問分野を知れる機会があると思うので、「あの学問のここをやりました。」ではなく、「これが分かった!」といえるような勉強してもらいたいです。

Q.趣味は?

ゲームとかです(特にRPGのストーリー性があるもの)。

Q.おススメの本は?

木下是雄の『理系の作文技術』
レポートを書く際勉強になります。
1,2年生のうちに哲学的な本を読むのもおススメ。

Q. 広島大学の好きなところは?

広いところ(笑)。
学生が勉強熱心で素直なところ。そして、研究室に連帯感があるところです。

Q.好きな漫画は?
『鋼の錬金術師』

Q. この人に出会ってよかったと思う人は?
将来その人のようになりたいと思えた学生時代の先輩と中学からずっと一緒にいるかけがえのないと思える友人です。

磨井 祥夫 先生

担当講義

スポーツ実習 / 健康スポーツ科学 / 健康スポーツ科学実験 / 健康スポーツ科学実験法 / 身体運動解析学 / スポーツ運動生理学 / 身体運動科学研究演習 / 総合科学演習 / 特別研究 (身体運動科学研究)



○研究内容

スポーツに限らず、歩く、走る、跳ぶ、投げるなど、人間の動作を解析して動作のメカニズム解明の研究をしています。例えば、スポーツが上手な人と上手じゃない人はどう違うのかという比較も行っています。

現在は他大学の先生との共同研究なんです。授業を対象とした研究もしています。例えば、筋力トレーニングの授業があれば、そのトレーニングは本当に効果があるのかどうか調べています。大学の授業はたいてい週一回、それも4か月という短期間なので、あまり効果を見込んでいませんでした。しかし、授業の最初と最後に総合的な筋力を比較してみると、一般学生と運動部の学生ではその効果に違いが表れて興味深い結果になりました。

○研究までの道のり

大学では始めは理系に進もうと思っていました。私の通っていた学部は総科のように入学してから専門を決めれば良いところだったので、それほど本格的には

考えてなかったんですね。そして、私はサッカー部に入っていたんですが、ある日、サッカー部の先輩にスポーツ科学の実験の参加者になってくれないかと頼まれました。その時は体脂肪率の実験だったので、参加者になってみてスポーツの研究がなかなかおもしろそうだなと思いました。日頃から自分がスポーツをやっている、なんでこうなるのかな、という疑問も持っていたので、それを追求したいと思ったのも、今の研究をするきっかけになりました。

○学生時代

大学のころはサッカーに打ち込んでいました。関東大学サッカーリーグ2部において、ポジションはGKでした。今の研究のきっかけにもなったので、意味のある大学生活だったと思います。後は普通の大学生でした。適度に遊び、適度に学ぶといった感じでした。

○研究してみたいスポーツ選手はいますか。

超一流選手はどうなっているのかはすごく関心があります。一流選手を測ってみたいとわからないことがあると思うんです。例えば、大阪世界陸上でウサイン・ボルトと競っていたタイソン・ゲイだったかな。彼を日本のスポーツ研究者がある研究所に集まって調べると、他の人よりアキレス腱が強く、硬いからあの速さを実現できるのだと分かりました。私も、超一流選手がなぜあのような動きができるのか興味あるので研究してみたいです。

○好きなスポーツを教えてください

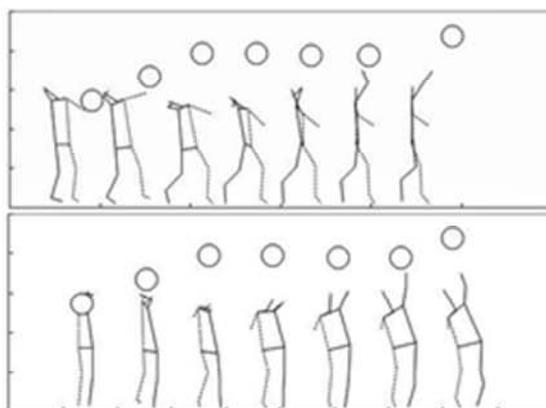
サッカー、バレー、野球など基本的にスポーツは何でも好きですね。でも特にテニスにはエスキーツニスやミニテニス、バトルテニスなど様々な種類があって奥が深いですね。現在はバウンドテニスの普及の手伝いをしています。

○学生に一言

総合科学部はなかなか面白い場所です。これまで勉強してきた面白いなと思っただけを追求してもらいたいです。せっかくの大学生活、他にも面白いことは色々な場所にもたくさんあるので、そういうところにも目を向けてバランス良くしてほしいです。勉強するのが苦痛になることもあると思いますが、最終目的は面白い勉強をすることにしたらいと思います。

広島大学はたくさん学部がありいろいろな研究がなされています。みなさんの目の前には、勉強に役立つこと、研究に役立つことが準備されています。そういう恵まれた環境にいるんです。だから、積極的に行動して十分に利用してもらいたいです。

最後に、クリティカル・シンキングですね。本当にそうなのかな？という疑問を常に持つてほしいです。



Q.おススメの本は？

山田ブーニーの『伝わる・揺さぶる！文章を書く』（PHP 新書）

Q.座右の銘は？

秘めたる矜持・澁刺

Q.趣味は？

回文、ボードゲーム

Q.自慢できること

円周率を50桁くらいまで暗唱できる

中越 信和 先生

担当講義

森林と人間 / 生物学実験 / 景観生態学 / 応用生態系論 / 開発技術特論 / 東広島キャンパスの自然環境管理 / 環境管理技術特論 / 資源植物学 / 環境資源論演習 / 国際協力プロジェクト演習 etc...



○研究内容

大学時代から学問で生態学 (ecology)

を学んだので、環境問題の専門家として、発展途上国と呼ばれる国々にアドバイスすることで国際協力をすることを目指して研究をしています。例えば、東南アジアの熱帯雨林をどのように守るべきかというのと同時に、その現地に住んでいる人や経営している会社などの利益を守らないといけないですよ。どのように経営していくかということや、人口増加に伴って農地を切り開く必要があるが、そこに住むオランウータンのような野生動物をどのように守っていくかということに対して提案をしていくことができるわけです。

それから主なミッションは三つあって、一つは地球上の生物多様性を守ること、二つ目は、温暖化を防止するために、温室効果ガスの吸収源を守ること、三つめは、人間にとってメンタルの面にとっても重要な自然を都市計画などの方法で守ることですね。やっぱり、エコロジーというものは、いろいろなことを組み合わせて考えなければならぬので、はば広くなりますよね。でも、すべてのキー

ワードは生物です。そして、生物を考えるにあたって基本になるのは植物です。植物は全てのエネルギーを作れるし、物質を生産できるからベースとなるんです。過去にあった大絶滅も植物が光合成ができなくなるとエネルギーや物質を生産できなくなってしまうことが原因なんです。そういう意味では植物は基本ですよ。朝ごはんだって植物がないと食べられないでしょ。人間は、偉そうにして

いるけど、結局は食物連鎖の上ののっかっていただけなんです。だからと言って植物は量があればいいっていうものではなくて、多様性が大切なんです。

——その植物の重要性を踏まえて、発展途上の国々の開発に利用しているわけなんです。

そうですね。そういった国の生活基盤は農林水産業が主なものですよ。ここで開発というと工業化が目立ってしまいがちですが、間違っってはいけないのは、発展途上の国々を工業化させてしまうと、我々の食べるものが無くなってしまふということなんです。資源をもらわな

いと、先進国はやっていけないんですよ。持続可能な開発のためには、役割分担が必要なんです。このために必要な学問体系や技術体系を伝えることが私のミッションですね。それに環境問題の解決するためには、いろいろな知識が必要なんです。だからこそ、いろいろな研究者が集まって同じ目標に向かって頑張っているんですよ。

——研究のスタイルが総合科学とそっくりですね。

確かにそうですね。総合科学部から国際協力のエッセンスを抜き出せば IDEC になるんですね。ただ、途上国のことがわかっていない人はいません。例えば、同じように熱帯林を保護しようとする研究者が二人いたとします。現地の人材を伐りたいといっているのと熱帯林のことしか知らない人はただ反対しますよね。

でも、途上国のことが分かっている人は切っさい区域と保護する区域を分けようと提案するんですね。途上国の人材は、木を切って売ることです。生計を立てているので、切るなどという提案はやっぱり

受け入れられないですよ。ちゃんと村や人にお金が落ちることと自然を守ることがを両立させるということを意識しています。このためにはいろいろな知識が必要で、総合科学的な考え方をしなければいけないですね。

あと、総科のいいところは、一つの物事に対するアプローチの仕方が様々であるということだと思えますよ。ほかの学部は先生が教えるという世界だけど、総合科学部はそうじゃなくて、生徒が主体で進めていくでしょ。そこがいいとおもうな。そうなる、もう私だけじゃ部分でしかなくなるんですけどね…。

○学生時代

広島大学理学部自然学科で植物について研究していました。でも、一、二年の間は生物の勉強をしとけばよかったなと思っていました。でも、三年になったくらいから、植物の生産力が地球や人間を支えているんだと思ってきましたね。周りを見渡しても、工業製品や情報やバイオテクノロジーに携わる人はたくさんいたけど、植物に関して研究する人が少ないなあと思っていました。でも、やっぱり植物はすごいんです(笑)。

○学生に一言

総合科学部は本当にいい学部だと思うけど、その分、辛いことも乗り越えないといけないこともあると思うんですね。だって、いろんなことをやるんですから。好きなことだけすればいいってわけにはいきけないでしょ。でも、そこをがんばる価値はあると思いますよ。頑張ってください。

Q.好きな景色は？
かどわき川の溪流

Q.生まれ変わったら何になりたいですか？
女の子に生まれたい

Q.おススメの本は？
ジャレド・ダイヤモンドの『文明の崩壊』

Q.趣味は？
いろんな国の音楽を聴くこと。

Q.座右の銘は？
人間は素晴らしい生き物だなあ

Q. 将来の夢は？
後光（亡くなる直前に見える光）を見て心残りなく天国に行きたい。